

1992.06.

No.14



Japan
Indiaca
Association

〔発行者〕

日本インディアカ協会

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-11
（日本レクリエーション協会内）
Telephone 03・3423・1241

社団法人設立に当って全国の指導者に訴える

基金勧募のお願い

日本インディアカ協会は、ただいま「社団法人」設立の準備を着々と進めています。

ご承知のとおり「社団法人」は、民法に定める公共事業を行なう公益法人で、国が法人団体として許可を与えるものです。現在の任意団体とは違って社会的評価を受け、公的な補助金や寄付金なども受けやすくなります。協会認定の指導者も社団法人の公認指導者として、社会的地位が高まるものと思います。日本のインディアカの将来を展望し、組織の礎石をきずくには「社団法人」設立が必要なのです。協会創設10年の今こそ、その機会に違いありません。

「社団法人」の許可を文部省から得るには、いくつかの条件があります。「社団法人」は全国の会員による組織ですから、少なくとも千人以上の会員が必要で、しっかりとした組織でなければなりません。また、営利を目的としない安定した全国的な事業を行なっていることも条件のひとつです。これらについては、すでに10年来の協会の実績の中で培われていますが、いまひとつの許可条件に一定額の「基金」があります。現在のめやすとしては2000万円です。

日本インディアカ協会では、日本レクリエーション協会のご協力も得て、鋭意努力につとめ約500万円をこれまでに積立ててきました。しかし、まだ500万円不足です。「社団法人」許可

の条件が今後ますます厳しくなる見通しの中で、設立の機は今をにおいてはありません。

そこで、全国の指導者の皆さんに訴えたいのです。みなさんの力で、「社団法人日本インディアカ協会」を設立してください。もし500人の指導者の方が、ひとり1万円ずつ募金していただければ、来年度には「社団法人」の許可を得ることができるでしょう。募金によって、日本インディアカ協会は自分たちでつくった団体だとの自覚を抱いていただければ、これに過ぎるものはありません。

このような趣旨から、「社団法人設立基金」を下記のように勧募することにいたしました。趣旨をご理解くださったみなさんのお力で、「社団法人」設立が実現することを願う次第です。

募金 1口 5,000円（何口でも結構です）

- ◎できれば「指導審判員」の方は2口以上をお願いしたいと思っています。
- ◎募金は直接日本インディアカ協会へお願いします。
- ◎募金をいただいた方は、社団法人会員（社員）の資格を得ていただき、総会の出席、発言権が与えられます。
- ◎募金は指導者の方だけではなく、クラブのメンバーの方にもおすすめていただければ、なおありがたく存じます。

〔平成4年度〕事業計画決まる！

〔全国大会〕

- ◎第15回全国インディアカ大会
1992年9月27日（日）／宮城県仙台市
- ◎オールジャパン・インディアカ大会
1992年4月19日（日）／北九州市総合体育館
- ◎オールジャパン・レディース・インディアカ大会
1992年8月8日（土）～9日（日）／大阪府立体育会館

〔審判員認定講習会〕

- ◎指導審判員
1992年6月6日（土）～7日（日）／千葉県青少年婦人会館
1992年7月11日（土）～12日（日）／大阪府久保田中央体育館
- ◎普及審判員
1992年6月6日（土）～7日（日）／山口県萩市体育館
1992年6月6日（土）～7日（日）／滋賀県希望が丘文化公園
1992年7月5日（日）／京都府立太陽ヶ丘体育館
1992年11月15日（日）／大阪市内
1993年2月13日（土）～14日（日）／北九州市立玄海青年の家

〔ブロック大会〕

- ◎東北ブロックインディアカ大会
未定
- ◎関東ブロックインディアカ大会
未定
- ◎東海ブロックインディアカ大会
1992年7月19日（日）／愛知県豊明市立総合体育館
- ◎関西ブロックインディアカ大会
1992年10月4日（日）／大阪府立臨海スポーツセンター
- ◎中四国ブロックインディアカ大会（JR杯）
1992年4月25日（土）～26日（日）／島根県立浜田体育館
- ◎九州ブロックインディアカ大会
1993年2月6日（土）～7日（日）／沖縄県名護21世紀の森体育館

指導審判員一覧

1991.6.25～92.3.31の取得
(順不同・敬称略)

●東京都

●神奈川県

●静岡県

●愛知県

●岐阜県

●三重県

●大阪府

●京都府

●奈良県

●兵庫県

●島根県

●大分県

普及審判員一覧

1991.6.25～92.3.31の取得
(順不同・敬称略)

●青森県

●秋田県

●宮城県

●山形県

●東京都

●神奈川県

●千葉県

●茨城県

●栃木県

●埼玉県

●長野県

●福井県

● 静岡県

●山梨県

●岐阜県

●愛知県

●石川環

● 京都府

●大阪府

● 滋賀県

●三重県

.....大会だより

●兵庫県
●鳥取県

●島根県

●岡山県

第10回健康・体力づくりのつどい
市民レク祭インディアカ大会
(埼玉県飯能市)

- ◎期日……平成3年10月20日
- ◎会場……飯能市民体育館
- ◎参加……34チーム
- ◎結果……女子(44歳)Aブロック優勝＝南高

●山口県
●香川県

属CノBブロック優勝＝双柳
女子(45～50歳)優勝＝飯能コスモス
女子(51歳+)優勝＝翔クラブ
混合優勝＝飯能西A

今大会を通じて、参加者が男女とも
高年齢化し、つくづく生涯スポーツの
必要性を実感した。少年少女を含む青
年層の参加も望まれる。

●愛媛県

大会の運営は順調に行なわれたが、
ただ一つ残念なのは30歳代の女子が右
足背部の骨を折ってしまったこと。準
備運動もストレッチを加えてかなり入
念に行ない、プレー前には個人別、チ
ーム別に再度準備運動をするように呼
びかけていた。しかし、ゲーム中のネ
ットプレーの際、ネットの真下で対戦

●福岡県

●佐賀県
●長崎県

するプレーヤーの足が、被害者の足の
上にとびおてきたのだ。
スポーツ大会で起こるケガはいくら
注意してもしるべきことはいくら
つくづく感じた。幸いスポーツ保険に加
入していたので、治療その他は保険で
補えたのだが。スポーツを楽しむ人は
スポーツ保険に加入されることをおす

●熊本県

静岡県インディアカ協会
設立記念大会
(静岡県焼津市)

- ◎期日……平成4年2月16日
- ◎会場……焼津市総合体育館
- ◎参加……75チーム

すめする。(指導審判員 野崎光介)

静岡県インディアカ協会は平成3年10月に発足した。それを契機に県内のインディアカ愛好者の親睦を深めるために催されたのが、今回の大会だ。

会場にはインディアカ協会が組織されている9市3町から、男子25チーム、女子40チーム、混成10チームの計約80人が集まった。記念大会ということで、楽しくゲームをしようというのが目的の15のコートを使って、1コート5チームの総あたり戦で行なった。勝敗にこだわることなく各コート（フロック）ごとに優勝者をだし、実力的にも分散させてみた。

この模様は「静岡新聞」にも掲載され、意欲のある大会をもつことができたと思っている。やっと始まったばかりという観が強いが、今後は中部大会、東部大会、県大会なども計画している。

（静岡県インディアカ協会）

第1回公認審判員交流

インディアカ大会

（愛知県豊明市）

- ◎期日……平成4年2月16日
- ◎会場……豊明市福祉体育館
- ◎参加……14人

愛知国体（平成6年）のデモスボ行事・インディアカ会場の一つである豊明市福祉体育館に、公認審判員が集まって初めての交流大会を開いた。日頃、試合に出場したくてもできない、裏方で働く運営スタッフ審判員たちの慰労を兼ねたものである。

公認審判員はかりの大会だから、さぞやリッパにと思われれるかもしれないが、残念ながら選手専任の人が多く、ホイッスルを吹くのは講習会以来という由々しき人が大半を占めていた。そのため試合前に、改正になった審判法や吹笛法を四苦八苦で習得し、大会で

はみんなが順番で吹くことを申しあわせて、チーム編成に入った。代表者の話しあいでもチームを決めたため、残念がるやら、うれしがるやら。でもさすがに試合慣れた人が多いので、コートのあちこちでハッスルプレーの続出だ。拍手と声援がなりやまなかった。さて、今大会にはもう一つ目的があった。インディアカは生涯スポーツの一つに位置づけられているが、競技性が強くなり、本来のインディアカに求められている「回りにいる仲間と一緒に手軽にできる」という要素が薄れてきている。そこで午前部が終わったあとの昼休みに、おもしろいインディアカゲームができないものか実践してみた。この1年間で集めたTシャツやタオルなど（企業からの賞品）でサーフゲームをやったのだが、このゲームだけで交流大会が終わってしまうのではないかとこのほどの盛りあがりを見せた。参加者からは、試合ばかりでなく研修もでき、またゲームで楽しめた大会運営に好評の声が多く、さっそく来年の日程も発表されるほど。今回実践した方法が少しでも普及し、楽しく笑い声のあるインディアカが広まるように、役員一同決意を新たにしたいと日であった。

（愛知県インディアカ協会）

第2回京都府インディアカ協会

会長杯争奪戦

（京都府向日市）

- ◎期日……平成4年2月23日
- ◎会場……向日市民体育館
- ◎参加……27チーム
- ◎結果……優勝：明治乳業C

当日は前日までの小雪の舞う寒波がウソのように晴れあがった小春日和の青空。京都でのインディアカ・スポーツの将来をみるような気がした。選手

たちの熱気、闘志の爆発はすさまじく、ひと休みする間もどかしげに2戦、3戦と重ねることに盛りあがる歓声と拍手。チームそれぞれユニフォームをそろえ、カラフルな色で相手を威嚇しながらのカップ争奪戦に影響されて審判団もそれまでのハードな特訓成果を披露し「実戦に強い審判」をイメージつけた。選手、審判一体の熱いゲームは一見の価値があった。

府協会の1年の集大成を目的としたこの大会は、事前の新しいルール定着のための講習会や人的根まわし、練習試合による試合運びのコーチ、審判員養成のための実技指導と、各地をローラーして得られたものである。会長以下、役員喜びは言葉にできない。

今大会は男子、女子、混合にかかわらず無差別にハンディー制トナメント方式をとった。ハンディは男子VS女子が6点、混合VS女子が4点、混合VS男子が2点である。いくらハンディが与えられるとはいえ、どんなチームに当たるかはわからない。したがって、一発勝負的な要素が強くなり、各チームとも綿密な作戦をたてざるをえない。しかし、これがよい方向に働いたのか、結果として新ルールが最大限に生かされた試合運びが展開され、京都府下にインディアカが完全に根を下ろしたことを確信したのであった。また、上位の3位を企業チームが独占したことは職域の強さと有利さを物語り、これをどのように方向づけていくかが次年度の課題である。

最後に、事前のテレビ放送のおかげで、大会以外のリンクリーグに兵庫、奈良、滋賀の各県チームが特別参加し、大会に花をそえてくださったことに感謝する。（京都府インディアカ協会）

島根県スボレク祭 松江地区インディアカ大会

（島根県松江市）

- ◎期日……平成3年9月1日
- ◎会場……松江市総合体育館
- ◎参加……37チーム
- ◎結果……男子優勝：松江A
女子優勝：伯太町
混合優勝：緑ヶ岡B

設立されて間もない松江インディアカ協会では、この大会を目前にして連日夜遅くまで話し合いがもたれた。細長い島根県を4つに分け、松江協회가主催・担当するのは県東部の松江地区19市町村。各市町村から男子、女子、混合の3チームが参加してくると、それだけで合計57チームが集うことになる。しかし、会場に用意できるコートは3面しかない。これをいかに上手に使うて地区代表を決めるかがポイントになっていたが、さしたる決定打がないまま当日を迎えた。

さて当日、朝8時に大会役員31名が集まった。9時の開会式を前に、集まったチームは男子8、女子17、混合12の計37チーム。それでもなんと3コートでこなし、加えて延長戦などの時間は予定外だったので少しずつすていき、閉会式を終えると夕方6時をまわっていた。

しかし、単に疲れただけの虚しさはない。大きな仕事をやり終えたという充実感に満ちたさわやかな顔が会場にあふれた。ハードなスケジュールであったにもかかわらず「また、来年も会いましょう」との言葉がとびかう。

次の大会は会場の手配を第一に、無理のないスケジュールで行ないたいと、理事長をはじめ役員一同大いに反省した。（松江インディアカ協会）

第7回 高松市インディアカ競技会

（香川県高松市）

- ◎期日……平成3年6月23日・7月14日
- ◎会場……高松市総合体育館
- ◎参加……100チーム
- ◎結果……女子優勝：古高松体協
男子優勝：一宮体協

女子50チーム、男子40チームの計100チーム80人が参加したこの大会は、マルヨシセンター・オレンジカップを争うもの。チーム賞のほか、最優秀選手賞、優秀賞、敢闘賞がもたらされ、それぞれにビッグな賞品が用意されているせいか、選手はみんなフアイト満々で盛大な大会になった。

今回で7回目を数えるが、参加チームは年々増えており、2回に分けて消化せざるをえない。最初の日にベスト16を決め、日を改めて決勝大会を開いた。主催の市協会としてはうれしい悲鳴をあげているのだが、ここで当協会の紹介をさせていただく。

発足は7年前で、初年からの大会を開いている。現在の登録団体は30、100チーム。市内での年間行事としては3月に校区別の大会（混成チーム）、6月には右に紹介した競技会、9月に家族対抗大会（年齢別、夫婦ペア）、10月に青空インディアカ大会（体育の日）公園で小学生と大人たちが対する、11月にリーグ戦（4ラウンドに分けて行なう）があり、その他に県レベルの大会が3回もある。

今後とも趣を異にした大会を頻繁に行なうことで、愛好者を刺激し、さらに多くの人々にインディアカを楽しんでもらおうと思っている。

（高松市インディアカ協会）

平成3年度
愛媛県インディアカ交流大会
(愛媛県重信町・八幡浜市)

◎期日.....平成4年1月19日・2月9日
◎会場.....重信町中学校体育館・八幡浜市スポーツセンター
◎参加.....61チーム

愛媛県は東予、中予、南予と大きく3つの地区に分かれるが、この大会は中予(重信町)と南予(八幡浜市)の交流を目ざし、それぞれに会場を設けて開かれたものである。

両会場あわせて女子40、混合12のチームが集い、混合の部は各会場とも総当たりリーグ戦で行なった。女子の部は、2セットマッチの3チームによるリーグを1次と2次に分けて行ない、各チームが4試合ずつこなした。

本県は第2回全国スポーツ祭の開催を機に、インディアカの組織づくりが行なわれ、現在は個人が登録されている。しかし、一市町村チームというところでは、交通事情があまりよくないために他地域との交流ができにくい。そこで、県を3地区に分け、それぞれの地区単位でまとまって交流をはかるということになった。今回紹介したのは、その一つである。

大会ではふだん顔をあわせたことのない相手と羽根を打ちあい、なごやかな雰囲気のまま終了した。特に女子は決勝戦を行なわず、各リーグごとに複数の優勝者をだすことにした。

本年度はまだチームが結成されていない地域で教室や大会を開催し、インディアカのチームを県内の各市町村に誕生させ、会員千人の県協会にしてい

くのが目標である。
(愛媛県インディアカ協会)

平成3年度九州北部三県
スポーツ交流インディアカ大会
(福岡県福岡市)

◎期日.....平成3年12月15日
◎会場.....福岡県青少年センター体育館
◎参加.....18チーム

九州北部3県(長崎県、佐賀県、福岡県)の知事サミットで決まったスポーツ交流会(平成元年度より開催)が、福岡市内の体育施設で行なわれた。平成3年度の競技種目には、高校生の部ではサッカーとハンドボール、一般の部ではインディアカが選ばれ、我々愛好者を驚かせた。

12月14日の午後には総合開会式が行なわれ、続いてインディアカ関係の各県選手団名と競技役員との懇親会が市内の中華料理店でもたれた。翌15日は、朝9時半から競技開始。

スポーツ交流会ということもあって、試合方式を工夫してみた。参加チームは3県から男女各3チームずつ。そこで、予選は男女それぞれ3ブロックのリンクリーグ戦とし、決勝戦は各ブロックの同順位のチームで構成してさらにリンクリーグ戦とした。つまり、予選で一位になったチームでも、次の優勝決定戦で勝たなければ賞はもらえない。逆に予選で3位になっても、次の3位決定戦で一位になれば総合3位として、賞をもらえるという方式である。

インディアカの普及状況の異なる3県の差が試合状況にも現れたが、白熱したゲームが展開された。この2日間に繰り広げられた懇親会と交流試合は、3県のインディアカ仲間の絆をいっそう深めてくれたようである。

(福岡県インディアカ協会)

KTN杯
レディース・インディアカ大会
(長崎県長崎市)

◎期日.....平成3年2月9日
◎会場.....十八銀行記念体育館
◎参加.....58チーム

財KTNスポーツ振興財団ならびにKTNテレビ長崎の協賛で、初めて開催された大会である。

開会式には来賓多数から祝辞をいただいたが、それに続く佐世保保健体操クラブの嘉村節子さんの「主婦業とインディアカをこよなく愛する私たちは女性らしく、華麗に、美しく、ときには力強くプレーすることを誓います」との選手宣誓には、会場の男性から笑いがもれ、その後のゲームをなごやかにしてくれた。

試合方式は予選リーグの成績で決勝ブロックを決定するようにした。これまでは予選リーグで敗退していたチームが決勝戦に参加できるとして、予選も和気あいあいと行なわれ、生涯スポーツとしての意義を実感できた。ただし、58のチームが6面のコートで戦ったために十分な試合時間がとれず、決勝戦では同点チーム同士がジャンケンで勝者を決定するをえない場面が多くみられた。会場確保と同率の場合の決定方法が、今後の課題として残る。

大会全体を通して、ビデオカメラを手にしたご主人や子供たちの姿も見られ、会場をにぎやかに包んでいた。

なお、KTNスポーツ振興財団はレディース大会だけでなく、混成チームや各パートごとの試合も検討中とのこと。県協会としても組織の充実をはかり、楽しいインディアカ大会が開かれるよう活動していくつもりである。

(長崎県インディアカ協会)

第8回
川内市ファミリーインディアカ大会
(鹿児島県川内市)

◎期日.....平成4年2月2日
◎会場.....川内市立体育館
◎参加.....35チーム

◎結果.....ファミリー優勝||コスモスロ
10歳未満優勝||翔A
10歳以上優勝||仲良しクラブ

日頃は親子で時間をともにする機会が少ないので、第8回までは特にファミリーの大切さを提唱する大会を開いてきたが、最近はお子も忙しくなってきた。親子一緒にプレーすることが難しくなってきた。そこで第7回大会からは、他の家族や親同士のプレーも意義があるとして、チームの年齢別に参加できるように、部を境にとつの部を加えてみた。

大会後の反省会では、さらに20歳以上の部をつくって、計4つにしてほしいとの声もあがった。健康で、敏捷性と巧緻性バツグンのインディアカ愛好者のために、20歳以上はもちろん、もっと幅広いニーズに応えられるよう知恵を絞りたいと考えている。

初めて試合に参加した親子は「羽根が思う所にかす難しかったが、この試合のおかげで少し上手になった気がする。来年はまた友だちも連れてきたい」と、メダルをもらってうれしそうだった。当日は市教育委員会とタイアップして、「壮年体力テスト」も実施。結果を医師に判断してもらった参加者は一石二鳥の収穫と、満足していた。

技術の向上と審判員の研修、さらに大会の進行など、当協会にとっては得ることばかりで密度の濃い1日であった。今年は鹿児島県県祭が当市で開かれる予定だ。

(川内市レクリエーション協会)

第26回
沖縄県インディアカ大会
(沖縄県沖縄市)

◎期日.....平成3年10月27日
◎会場.....沖縄県総合運動公園体育館
◎参加.....57チーム

◎結果.....女子チャンピオン優勝||ひまわり
女子ふれあい優勝||てるまりずん他
混成優勝||大宮ファミリー
男子優勝||ドンマイ

沖縄県インディアカ協会は昭和58年に設立され、現在は年間4回の大会を開催している。一般女子の部には「ふれあい」ブロックの他に、より競技的な「チャンピオン」ブロックがあつて、日頃の成果を試したいという人に好評だ。もちろん男子や混成の部もあり、ほかにもファミリー、小学生、中学生、熟年と幅広い年齢の人が参加できるようにしているのが特徴である。特に、平均年齢62歳という熟年チームの元氣ハツツプレーは、とくに競技的になりがちな大会の雰囲気をやわらげられるカンフル剤となっている。

この大会の前に作られた県インディアカ協会の旗が会場に掲げられ、12面のコートでいっせいに羽根を打ちあっている光景は、まさに壮観であった。初めてインディアカ大会を見る他のスポーツ関係者は驚嘆して熱心に見入っている。その姿を見た協会役員は得意満面であった。

平成4年度には、来年2月の桜の花が咲くころ、九州ブロックインディアカ大会が本県で開催される。沖縄へメンソーレー

(沖縄県インディアカ協会)

*掲載したほかに、各地から多くの大会だよりが寄せられましたが、紙面の都合で割愛させていただきました。